

2023年7月23日 No.3677

先週の講壇から

「幸か不幸か」

ルカによる福音書 第6章 20節～26節

聖句「貧しい人々は、幸いである、／神の国はあなたがたのものである。／今飢えている人々は、幸いである、／あなたがたは満たされる。」(6:20,21)

1. 《幸運と不運》 英語表現に「ビギナーズラック／初心者の幸運」があります。日本なら「マグレ当たり」です。競馬・競輪・競艇、パチンコや賭け麻雀などのギャンブルの世界で、ズブの素人が大当たりを取ることがあるのです。その時の高揚感が忘れられず、身を持ち崩す人も大勢います。但し、私たちの「射幸心」を煽るという点では、宝くじもギャンブルの一種でしょう。特別な幸運が転がり込んで、自分に大きな利益がもたらされることを夢想してしまうのです。
2. 《御利益信仰》 スポーツ界でも「幸運」を祈念して神社に参拝します。様々な縁起担ぎやジンクスもあります。勝利のために、大変な努力と鍛錬を重ねた選手、チームであっても、最後は「神頼み」なのです。初詣の賽銭を神主が熊手で集めている姿は、賭場の駒札を集めるダイススティックを連想させます。賭場の手数料を「寺銭」と呼びます。何となくギャンブルの匂いがします。寺社の謳う数々の御利益「商売繁盛」「福德開運」「学業成就」「合格必勝」「夫婦和合」「子授け安産」「交通安全」「家内安全」「無病息災」「厄除け」等、すべからく自分の幸運だけを願っているように思われます。中には「宝くじ的中」を売り物にしている神社まであります。毎年、9千9百万人もの人が初詣に行きますが、ただ自分と自分の身内の幸運を願っているのかと思うと、頭がクラクラします。
3. 《本当の幸い》 イエスさまの御言葉は、この世と正反対です。どうして貧しい人や飢えている人、泣いている人が幸いでしょうか。誰もが幸せを望んで「金運招福」を祈願しているのです。私たちは、自分が金持ちに成って、人生が上手く行って、お腹一杯美味しい物を食べて、笑っているのが幸せだと考えて、そんな「幸せのかたち」を追求して来ました。でも「幸せの意味」について深く考えるべき時が来ているのかも知れません。私たちの身の周りにも、貧しい人、飢えた人、泣いている人がいるのです。そして私たちは今、たまたま幸運に恵まれているだけです。この世の「幸せ」は一時的で不確かなものです。突然に失われてしまう儂く脆いものです。本当の幸せは、神さまの御ものにあるのです。

朝日研一朗牧師